筑波嶺に登りて嬥歌会を為る日に作る歌一首
并せて短歌

一七五九番

鷲の住む　筑波の山の　裳羽服津の　その津の上に　率ひて　娘子壮士の　行き集ひ　かがふ嬥歌に　人妻に　我も交はらむ　我が妻に　人も言問へ　この山を　うしはく神の　昔より　禁めぬ行事ぞ　今日のみは　めぐしもな見そ　事も咎むな

反歌

一七六〇番

男神に　雲立ち登り　しぐれ降り　濡れ通るとも我帰らめや